

令和5年度 熊本県女性の社会参画加速化会議 議事録

令和5年12月22日（金）14：00～15：30

熊本県庁 本館5階「審議会室」

1 開 会

2 挨拶 熊本県知事 蒲島郁夫

3 議 事

(1) 「熊本県女性の社会参画加速化戦略」目標達成状況及び関連事業について

【事務局説明概要】

- ・加速化戦略目標（長期目標・短期目標）の達成状況について報告。
- ・加速化会議の構成団体の取組状況等について紹介。

(西村委員（議事進行）)

第5次熊本県男女共同参画計画のうち、女性の活躍推進の成果目標を「加速化戦略の短期目標」として位置づけ、取組みを進めている。構成団体である委員の皆様には、目標達成に向けて引き続き御協力をお願いしたい。

(2) ヒゴロッカサミット2023の成果報告について

【事務局説明概要】

- ・12月2日（土）に開催した「ヒゴロッカサミット2023」について報告。
- ・男女共同参画社会の実現に向けて様々な挑戦を続ける方々（6名）を表彰するアワードを開催した。
- ・TSMCの本県進出を契機に、グローバルな視点を取り入れて、男女共同参画を考える機会とするため、海外経験豊かな漫画家・文筆家・画家であるヤマザキマリ氏による「違いを楽しむとらわれない生き方」と題した講演を実施した。
- ・また、ヤマザキマリ氏、蒲島知事、フリーアナウンサーの村上美香氏の3人によるトークセッションを実施した。

(3) 若年層への意識啓発に係る取組みについて

【事務局説明概要】

- ・熊本県の20代から30代女性の転出超過数が男性を上回る要因の調査・分析結果（令和4年度実施）から見えてきたことを踏まえ、今年度は①「ヒゴロッカサミット2023プレサミット」の開催、②「熊本県版女性のロールモデル動画」の作成・発信を行った。
- ・プレサミットは大学生等を対象にして、ヒゴロッカサミット2023と同日に開催し、熊本在住の様々なジャンルで活躍する女性5名によるパネルトークと学生との交流会を実施した。

- ・熊本県版女性のロールモデル動画は、熊本でのキャリアアップを目指す女性や、これから社会に進出する学生など、主に20代から30代の若年女性に見ていただくことを考えて作成した。配信から20日間で、動画再生回数はダイジェスト版で6万回超となっている。

4 質問・意見交換

【坂口委員】ヒゴロッカサミットを拝見したが、ヤマザキマリさんは非常に面白かった。どういう基準で人選されたのか。

【事務局】ワーキング会議や実行委員会で、色々な御意見をいただいた。今年度は、TSMC進出の影響で熊本も大きく変わるということで人選した。好評だったという声をいただき大変ありがたく思っている。

【西村委員】加速化会議発足時はどう進めればいいのかとと思っていたが、ヒゴロッカサミットも4回目となり、自分たちのやり方が見えてきた。令和4年は「女性の転出超過に対してどう備えたらいいか」など、その都度最先端のテーマを掲げてやってきた。

今回は、俯瞰した見方ができる方、かつ、「あの人」と言えばみんなが分かる方ということで、ヤマザキマリさんの登壇が叶ったことを嬉しく思う。

サミットの時に周りの人たちから、「よくぞヤマザキさんと呼んでくださいましたね」という意見をたくさん聞いたので、本当にありがたく思っている。

【斎藤理事（櫻井委員代理）】令和2年の国勢調査から、熊本県は女性の人口割合がかなり高いことが特徴だと思っている。女性がなぜ転出するのかということの調査・分析だが、女性から見て県内の企業に魅力があるかどうか、働きやすい環境整備はどうかということが大きな問題だと思う。

今回のTSMCの進出に伴って半導体関連企業が増加し、女性の労働力が求められるようになる。調査・分析結果の中に、「自分の能力や、キャリアを生かしたい」とあるが、裏を返せば県内に魅力ある企業が少ない、自分のキャリアを続けられる気がしないということになると思う。女性がなぜ、熊本で就職せずに県外へ出るのか、これ以外に分かったことはないか教えていただきたい。

【事務局】（今回の調査結果から）県内企業の魅力を発信していく必要性を、私たちも気づかされた。また、子育て環境や公共交通機関の問題も、この調査の中で見えてきた。庁内全体にわたる色々な課題も見えてきたので、調査結果を生かしながら施策が展開できないか検討したい。

【西村委員】「地域によっては、『女子が出るな』という文化がまだあり、そういう文化が嫌だから都会に出る」ということを、令和4年のサミットで日本経済新聞の山本デスクも言われていた。活発に（男女共同参画社会の土壌を）耕すような動きをしていくうちに、だんだん解消されていけばいいと思う。

【蒲島知事】資料1の3ページにある「熊本県女性の社会参画加速化戦略の目標及び達成状況」の「県知事部局における役付の職員（課長級以上）」が14.1%で、先日の記者会見で、記者の方から「わずか14.1%ですか」と言われた。私が知事になったときには4%だったので、10%上がったと思っていたが外から見るとまだまだ低い。令和7年度の目標をもう少し高くしたらどうか。

【事務局】この計画は、第5次計画で令和7年度を目標としており、今年度は中間年に当たる。また次の第6次計画に向けての準備も意識しているところ。

今の計画ではこの数字だが、現状でいいと思っているわけではなく、次の計画に活かしていきたいと思っており、数字だけにとらわれず、進めていける部分は積極的にやっていきたい。

【垂見委員】「熊本県版ロールモデル動画」のロールモデルがおっしゃったみたいに、「男女関係ない」というのが今の若い人の考え方であり、本当に世代間ごとに変ってきていると思っている。ヤマザキマリさんをはじめとして、海外に出ていらっしゃった方が、日本に帰るのは大変だよと言われるが、日本はいいところだよと言われるようになりたい。

私が問題に思っているのは、どうして男性が育休を取らないのかということ。環境の整備ができればクリアできると思っている。未来を見据えた、本当に誰一人取り残さず、みんなが一緒になってやっていくというようなものを、男女共同参画で目指していただきたいと思っているので、育休取得率の数値を100%にしていきたいという気持ちがある。

【藤井委員】ヒゴロッカサミットは回を追うごとに本当に充実度が増してきた。今回、オンラインで参加したが、離れているということを感じずに楽しむことができた。

女性活躍推進はまだ地域格差があると実感している。令和5年3月にパレアの館長を退いてから、益城町で同じような取り組みをしている。市町村では、男女共同参画担当者は1人、しかも様々な仕事と兼務しているところが多く、男女共同参画の推進に1人で取り組むのはなかなか難しい状況だと思う。今後はそういったところへの後押し、県で取り組んで進んできたことを、どのように市町村に広げてそれを定着させていくのかということが重要になってくると思う。

2年程前に、この会議で県の防災会議の女性委員が少ないということを発言したところ、すぐに委員を十数名増やしていただいた。市町村の中には、まだ0人という町が3か所あり、その1か所をお願いに行ったが、認識が薄く、難しいと感じた。

これだけ男女共同参画の取り組みが必要だと言われる中で、取り組みをしているにもかかわらず、県内では男女共同参画センターが熊本県、熊本市、天草市にしかない。他の県はもう少し多いかなと思う。本気で推進していくためには、人・物・お金というところで努力がまだまだ必要なのかなと思っている。

【事務局】私たちも市町村との連携は本当に重要だと考えている。市町村と一緒

に、地域でがんばっていただく男女共同参画推進員の研修や地域リーダー育成事業など、コロナ禍で実施できていなかった事業も今年度から再開した。また、今年度は、阿蘇管内に行き、色々な業務をしながらご苦労されている市町村の担当者の方や地域の推進員と一緒に、今の課題などについて話をした。

男女共同参画センターについては、現在、国で法改正に向けた動きも出てきている。人材育成や、財源、時間、労力など、様々な課題があるが、市町村と一緒にやっていきたいと思っている。

【笠委員】私たちの団体は、女性部連合会があるが、非常に元気がいい。実質女性の方が支えているというのが、郡部の中小企業の現状だと思う。

最近の傾向としては、創業セミナーを実施すると女性の参加者が多く、多い時は6割ぐらいである。会員数から見ると女性経営者の割合は13%程度だが、今後は徐々に増えてくるということが予想されている。

また、昨年度から経営面に主体的に関わっていただくよう女性経営者の集いを始めた。お互い情報交換をして事業を盛り上げていけるようにしたい。

台湾の政府機関や貿易センターなどを訪問してきた。TAITRA（台湾貿易センター）はトップもスタッフも女性であった。自治体の議員も、30代女性議員が多く、商工会もトップは女性である。

【福岡副代表幹事（笠原委員代理）】経済同友会では、2年前から積極的に女性会員を増やし、7名から30名に増やすことができた。また、女性活躍少子化対策委員会という部会を作り、積極的に活動している。また、この部会で、学生50人と経営者27人が集まってライフデザイン講習会を行ったが、非常に好評だったので、来年も継続事業として計画している。

私の勤める会社では、女性管理職に登用する際、育児を理由に辞退したいという意見があった。このため、そういうことがないように、女性管理職を上管理職がフォローするような取組みを始めた。また、育児休業から復帰した女性の休業期間がハンデとならないような人事体制を組む取組みをしている。

【細江委員】大学コンソーシアムは、13団体の教育機関がある。特に、大学は男女共同参画という観点でいろんな取組みをやっている。職員の採用については、男女は全然関係なくなっている。私が学長として入った時から、女性が多いという感じになっている。また、事務局長や幹部職も女性が増えている。

ただ教員については、女性と男性の比率はあまり変わっておらず、女性の割合は15%ぐらい。女性の進学率が従来に比べて増えてきているというわけでもなく、女性研究者の養成がなかなかできていない。国が政策的な措置をやらなないといけないと思うが、現在のところまだ模索中である。

また、教員、職員含めて男女ともに、結婚されていない方が多くおられるので、大変気になるところ。その辺は社会的な課題であると思う。

それから、個人的な意見として、個人や小規模企業などの存在は、社会としての多様性として必要であると思う。そういったところで本当にがんばっている女性の方は多くいらっしゃるの、何らかの支援をするなど光を当てていただ

けないかなと思う。

【小笠原委員】前回の会議で申し上げたと思うが、理事会や私が関わっている法人の役員の半分以上を女性にした。熊本はなかなか変わっていかないところがあるので、意識的に努力しないといけないと思っている。

医療福祉分野は女性が多い。管理職やその一番上の経営陣が男性も女性もバランスが取れて参画できるようなシステムにしていくことが重要だと思っている。

私たち社会福祉法人というのは、比較的固い組織である。公益的な事業をきちんと実施しなければいけない立場として、女性に関する問題についても、多様性や柔軟性を持って関わっていかなければならない。

男性が弱くなった、女性が強くなったというより、バランスがとれてきたと言った方がいいのではないか。10年でこれだけ変わってきたのだから、あと何年かすると、もっと当たり前になってくるのではないかと思う。ヨーロッパ辺りに行くと、父親も保育園に子どもを迎えに行ったり、一緒に育児をしている。私もどちらかという少し古い方になるが、自分の組織にも、その辺りの意識を具体的に取り入れていきたいと思う。

【蒲島知事】今日はたくさんの意見をいただいた。

男性育休については、全国知事会でも話が出ており、県庁でも私が自ら育休を取るように言ったら多くの職員が取るようになった。上司のメッセージが大事で、それで安心して育休を取ることができるようになる、というのが私の経験である。防災会議の女性委員の数が少ないとの発言があった。（2年前の会議後に）県ではすぐに女性委員を増やしたが、市町村にも、こういうのが大事ですよと言ってほしいと思う。女性がとても元気で、男性がおとなしいという話があったが、私もそれは感じる。「海外チャレンジ塾」という取組みを行っているが、参加するのは、80%が女性である。どんどん変わりつつあるなと思っている。

また、外国では両親で子どもを見るのが普通だということだった。今、男女相互の関係は、変化の途中であるのかもしれない。そういう意味ではとてもいい時期にこの会議を開いたのではないかと思う。これまで様々なご意見を聞かせていただいて感謝している。

【西村委員】知事が加速化会議の音頭を取ってくださったからこそ、10年前に、産官学のトップが一堂に会することができた。デリケートな問題ではあるが、話題性の小さなものであった男女の問題が、大きな社会問題、そして推進するテーマとして多くの話をすることができた。改めて心より感謝申し上げます。